

2019 年度 センター試験 世界史 B (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：36 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ● やや難化	○ 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし

総評

例年通り、テーマ史的なリード文を用いながら広い範囲の小問を集めた形式となっており、大問 4 題・総解答数 36 問という分量も昨年と同じ。戦後現代史を含む問題は昨年の 5 問から 9 問に増えたが、選択肢の一部に現代史が含まれる形がほとんどであり、この範囲の比重が増したわけではない。

難易度については、例年のセンター試験と比べると、正誤の判断に少し迷わされるポイントや語句が増加しており、平易だった昨年よりも少し上昇している。しかし、センターの問題としては標準的レベルに収まっているので、冷静に対処して得点を伸ばしたいところである。

出題形式そのものには変化がなかった。また、形式ごとの出題数も昨年とほぼ同様である。空欄補充型の語句問題が昨年通りの 2 問、年表形式の問題も昨年と同じ 1 問であった。地図問題は少し増え、昨年の 1 問から 2 問となった。

なお、グラフを題材とする問題が 4 年連続で 1 問出されており、定着した感がある。また第 1 問-Bのリード文は、現行の課程で強調されている日本史を意識した内容であるが、問題そのものは日本史的な要素はあまり含んでいない。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	歴史的建造物や遺跡	25 点	考えさせられるリード文を用いながら、広い範囲の地域・時代を扱っている。先史～現代史までが含まれる、センターらしい大問。なお、他の大問も同様であるが、掲載された写真や絵については、設問を解く上で直接の関係はない。
第 2 問	記録や文字	25 点	これも古代から近代までの広い範囲を扱った大問だが、文化史や地図問題も含まれている。文化史や地図問題はこのように一定数が必ずセンターでは出題されるので、その学習が後手に回ったりしないよう、計画的に学習を進めることが重要である。
第 3 問	国際関係	25 点	世界恐慌に対するブロック経済を実行したイギリスとドイツ・カナダの貿易額のグラフを用いた大問。地図問題も含まれる。グラフ問題については、暗記事項で解かせるものではなく、ブロック経済実行による輸入量の変化を考えさせるという、思考力重視の姿勢が見られる。近年のセンターらしい問題である。
第 4 問	宗教と政治	25 点	戦後現代史・文化史や年表形式の小問を含む、幅広い範囲での総合的学力を問う大問である。全体としては標準的な問題であり、年表型の小問も平易なものであった。ただし、例えば朱子学における四書の重視やインカ皇帝が太陽の化身であるとされたことなど、つい忘れていそうなポイントが出されているので、油断なく準備をしておくことが大事である。